

使い方編

段ボールコンポストで生ごみ減量

段ボールコンポストが準備できたら、さっそく使ってみましょう!

生ごみ进行处理するための床材を作ります

1 市販の腐葉土(約1.5kg)を用意します。

※落ち葉で代用できます。
落ち葉を使用する場合はよく揉みほぐします。
また、落ち葉を使用する場合は新しい落ち葉より、古い落ち葉の方が生ごみを分解する微生物が多く住みついています。



2 米ぬか150gを加えて、よく混ぜます。

これで、生ごみを分解するための床材ができあがりです。

生ごみ処理の注意点

1 毎日の管理について

- 入れる生ごみの量は1日200g~500gくらいを目安に、よく水を切ってください。
- 虫の発生や腐敗を防ぐため、生ごみを三角コーナー等に長時間放置しないでください。
- 生ごみを入れない日でも、1日1回以上ネットをかき混ぜて空気を入れてください。

2 温度について

- 生ごみの処理温度は40℃前後をキープするのが理想です。
※もし、温度が上がらない時は、米ぬか・天かす・砂糖が入ったお菓子類などを入れてください。
(冬場のポイント)
- 外気温の低い冬場は60℃~70℃くらいのお湯をペットボトルにいれ、箱の周りに置き、古い毛布やバスタオルなどで覆い保温することで、微生物が活発に活動できます。

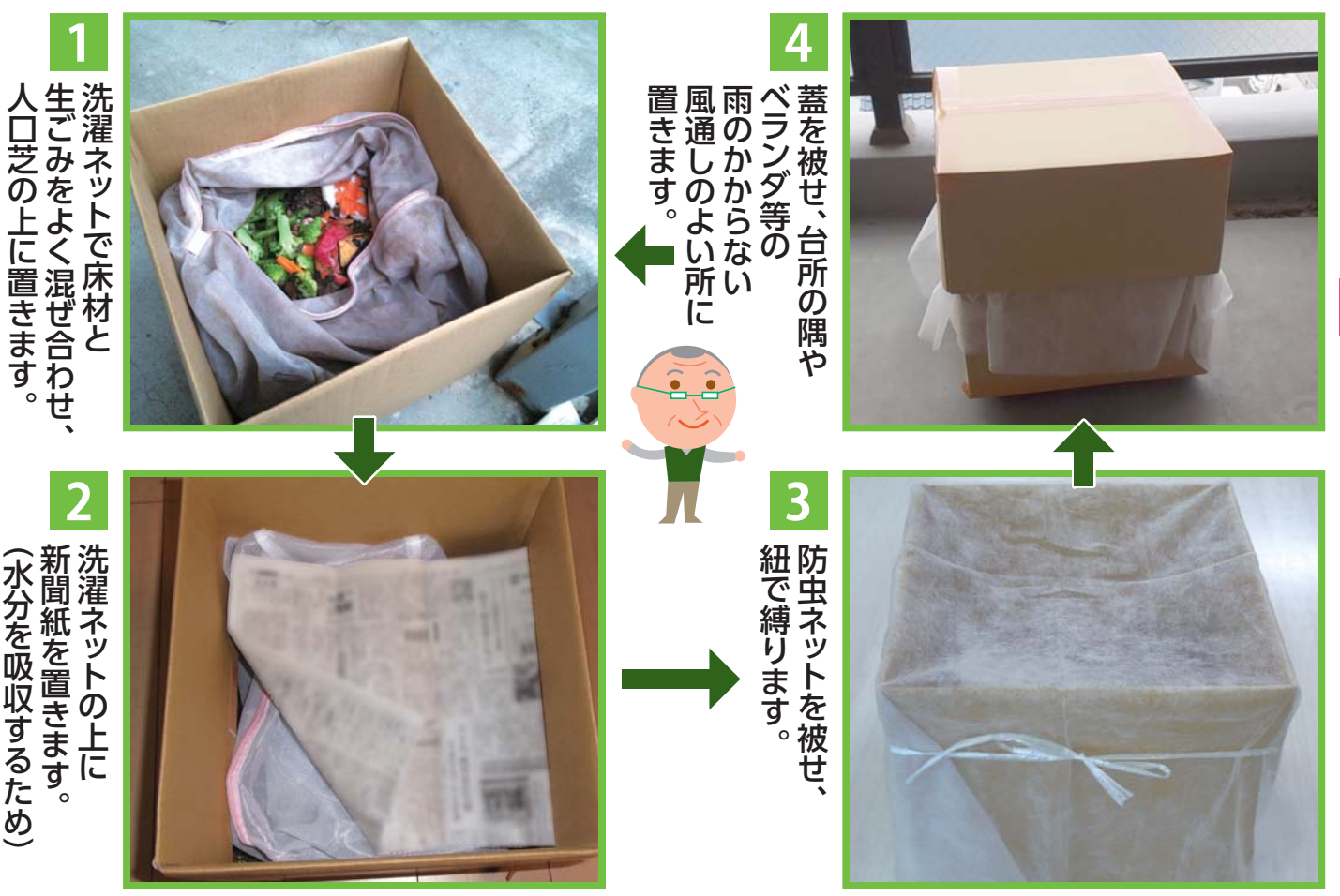
3 虫について

- ハエやアメリカミズアブ等の侵入を防ぐために、防虫ネットは必ずかけてください。

4 臭いについて

- 一度に大量の魚やイカの内臓を入れると強いアンモニア臭が出る場合があります。
※そのような場合は、米ぬかを一握り加え、よくかき混ぜると良いでしょう。
- 魚等は熱湯かけの処理をすることで、臭いの発生を抑えられます。

段ボールコンポストで生ごみの処理を実施します



1~4を毎日繰り返します。

処理したものを堆肥として利用しよう

処理物がいっぱいになったら



▲処理物

堆肥として利用

処理物と同量の土を混ぜて、夏は1か月、冬は2か月寝かせた後に、堆肥として使えます。

【注意】
段ボールコンポストでできた処理物は生ごみが分解されていない部分があるので、そのまま堆肥として使用できません。
種をまいても発芽しなかったり、根腐れを起こす恐れがあります。

床材として利用

引き続き、段ボールコンポストの床材で使えます。

(問い合わせ先) 千葉市廃棄物対策課 043-245-5379

